

学校における食に関する指導の進め方

保健体育課

食育推進の必要性

近年、急速な経済発展に伴い、生活水準が向上するとともに、生活スタイルや食を取り巻く社会環境の変化などを背景に、朝食の欠食や孤食の増加、食習慣を要因の一つとする生活習慣病の低年齢化、運動不足や栄養等の過剰摂取による肥満傾向の増加に加え、やせ傾向にある若い女性が増加しているなど、新たな課題も生じています。

そこで、学校教育において、児童生徒が生涯にわたって、生き生きと暮らすことができるよう、自らの食生活を適切に判断し、食に関する課題を解決する力と食の大切さや健全な食生活の実現に向かう情意や態度等を育成するための食育を推進していく必要があります。

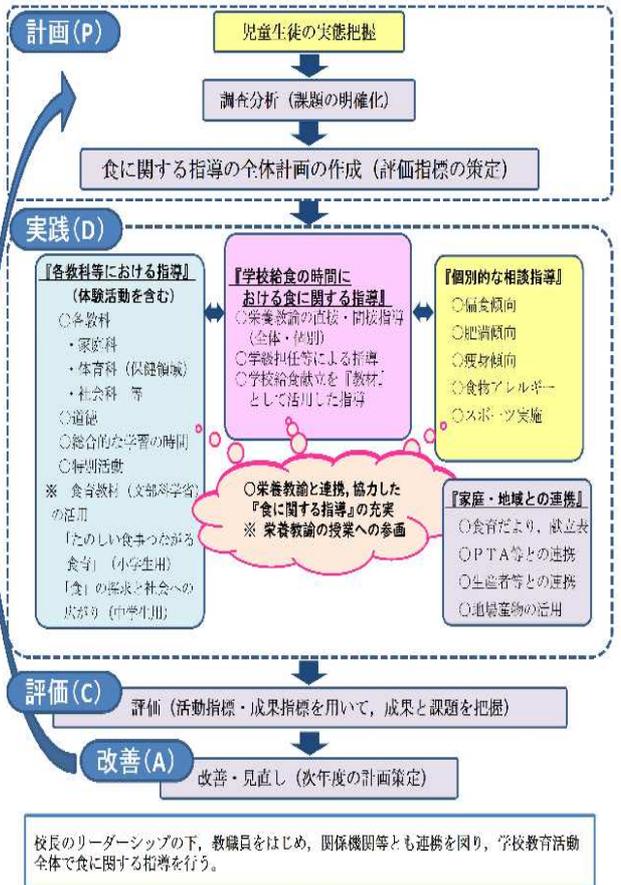
食に関する指導の充実のために

学校教育活動全体で食育の推進に取り組むために、各学校において食に関する指導の目標や具体的な取組についての共通理解をもつことが必要です。

- 校長や他の教職員への研修の充実等、全教職員が連携・協働した食に関する指導体制を充実させ、教材の作成等の取組を推進する。
- 食に関する指導の時間が十分確保されるよう、栄養教諭を中心とした教職員の連携・協働による学校の食に関する指導に係る全体計画の作成を推進する。
- 地域の生産者団体等と連携し、学校教育を始めとする様々な機会を提供する。
- 校長のリーダーシップの下、栄養教諭を中核として、学校、家庭、地域等が連携・協働した取組を推進するとともに、その成果を広く周知・普及する。

食育推進のPDCA

チーム学校として食育に取り組むためには、栄養教諭を中核にして、食育を推進する際の一連の取組を「計画」「実践」「評価」「改善」のPDCAサイクルに基づき、食育を推進していくことが重要となります。



校長のリーダーシップの下、教職員をはじめ、関係機関等とも連携を図り、学校教育活動全体で食に関する指導を行う。

学校・家庭・地域が連携した食育の推進

食育は、学校の取組だけで目標達成はできません。家庭や地域等との連携があって学校給食や食に関する指導が豊かなものになります。

- 積極的な食に関する情報の収集や発信により、児童生徒の食生活の状況や基本的な生活習慣の課題等について共通理解を図る。
- 学校における食に関する指導の目標や内容、方法、学校給食の意義、役割等について啓発を図る。
- 学校における食に関する指導において、地域の教育関係者、医療関係者、生産者や関係機関等と連携しながら推進を図る。

参考資料



「食に関する指導の手引き」



「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」